

### 基本目標4

### 活力ある産業振興と雇用の創出【産業振興】

## 第1節

### 次代を見据えた地域産業の振興

#### 現状と課題

◆ 本市は、丘陵が起伏し平坦地が少ない地形のため、傾斜地に多くの農地が存在しています。平成17年における総耕地面積は3,620haで、うち田2,400ha、畑1,190ha、樹園地27haです。また、林野面積は、総土地面積の50%以上を

占めています。

本市の主要農産物等は、水稻、いちご、アスパラガス、ばれいしょ、葉たばこ、たまねぎ、みかん、メロン、肉用牛、豚、にわとり、菌床しいたけなどがあります。

#### ■主要農作物収穫量(平成17年)

単位:t

農産物名	水稻	いちご	アスパラガス	ばれいしょ	葉たばこ
収穫量	6,180	339	197	1,150	108

資料:長崎農林水産統計年報第53次

#### ■主要家畜家きん頭羽数(平成18年)

単位:頭、羽

家畜家きん名	肉用牛	豚	にわとり
頭羽数	6,580	1,228	62,620

資料:平成18年版平戸市主要統計指標

#### ■菌床しいたけ売上額の推移

単位:千円

年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
売上額	1,041,160	932,621	827,977	844,943	869,243

資料:農林課

◆ 農業形態は、兼業農家が大部分を占めており、専業農家が少なく、経営耕地面積1ha未満の小規模零細農家が約66%を占めています。高齢化等に伴い農家戸数は年々減少し、耕作放棄による遊休農地が増え、農地の流動化が進んでいない状況です。また、農業集落

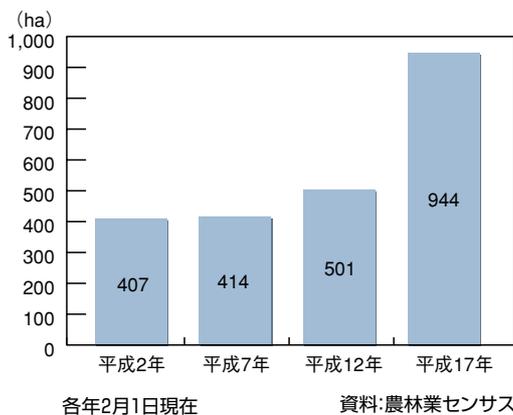
は、農家戸数の減少、少子・高齢化、農家・非農家の混住化等により農村地域の共同体的性格が薄れつつあり、年々衰退している状況です。

今後は、生産体制の強化のため、農地の流動化の促進や集落営農への転換、環境保全に

配慮した基盤整備が課題となっています。

また、イノシシなどの有害鳥獣による農作物被害が年々増大し、生産者の悩みの種となっており、さまざまな被害防止対策に取り組んでいるものの、農作物被害の減少には至っていないのが現状です。今後も継続して取り組む必要があります。

■耕作放棄地の推移

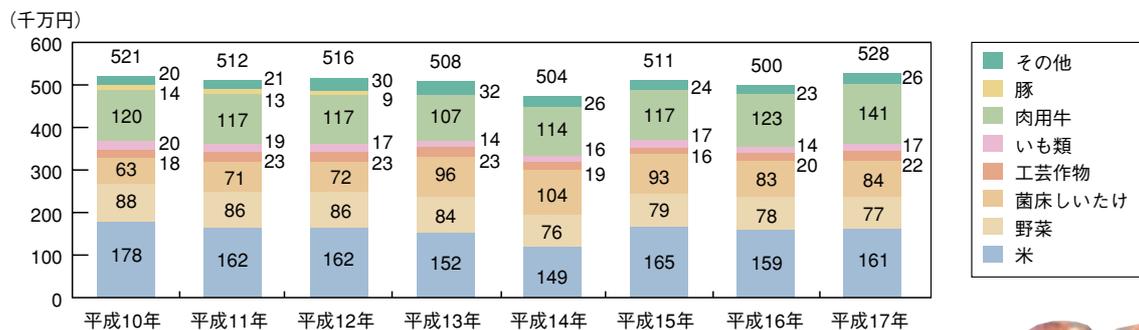


◆ 肉用牛は地域農業の基幹作物として重要な役割を果たしていますが、飼養戸数及び頭数が減少しているため、経営規模拡大や低コスト生産等による経営の効率化、安定化や品質向上等の取り組みが求められています。

◆ 森林の多くは人工林であり、その多くは間伐を必要とする林齢であるため、適正な森林施業が急務となっています。また、近年の木材価格の低下や生産コストの増大、外材の輸入増加など林業を取り巻く環境は非常に厳しい状況です。

地球環境問題や自然環境の保全が重要視される中、森林保護の重要性の理解を深めながら、今後とも総合的に森林整備を進めるとともに、生産活動の重要な担い手である森林組合への支援を図ることが求められています。

■農業産出額の推移



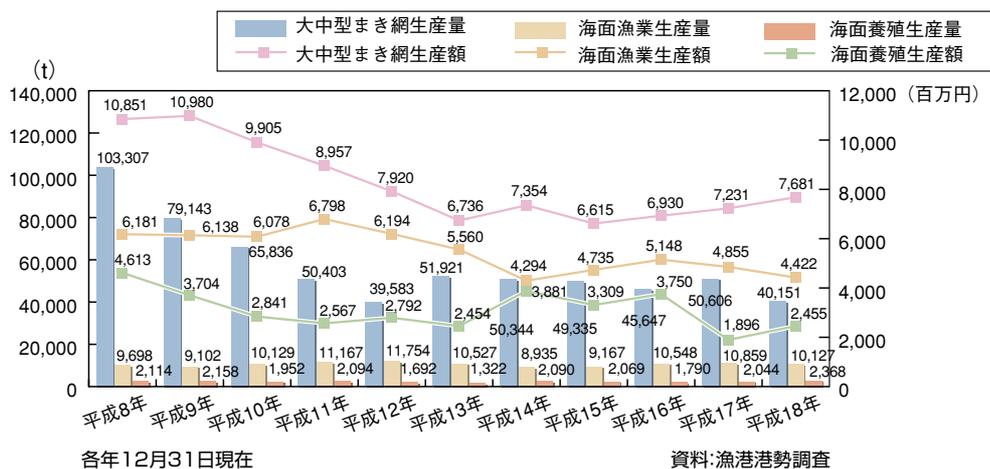
- ◆ 本市は、対馬暖流と数多くの島嶼や複雑な海岸地形がもたらす潮流の影響により、九州でも屈指の好漁場が形成され、アジ・サバ・ブリ・イカ類などの回遊が見られるほか、マダイ・イサキ・ヒラメや磯根資源のアワビ・ウニなど数多くの魚介類に恵まれています。  
 しかしながら、長い間の乱獲と沿岸域の開発行為、さらには地球温暖化等に伴うと考えられる磯焼けにより、水産資源の再生産機構の変動が問題視されています。
- ◆ 魚価は全国的に低下傾向にあり、さらに出荷・販売に要する流通コストは増加しており、水産物の産地である本市は、付加価値の向上並びに流通コスト削減対策を施策の両輪

として推進しつつ、消費者のニーズに的確に応える事業展開を図る必要があります。

また、産地市場や系統団体への共販出荷を主体としながらも、消費者への直接販売を伸ばす必要性に迫られています。

- ◆ 本市の漁協は、一部に合併による経営基盤強化の取り組みが見られるものの、組合員の減少と高齢化や漁業生産の低迷等により、組織・事業の再編強化が求められる組合も見受けられます。漁村地域における中核的役割を担う協同組合として、自立漁協体制への再編と事業の強化が求められています。

#### ■漁業生産高の推移



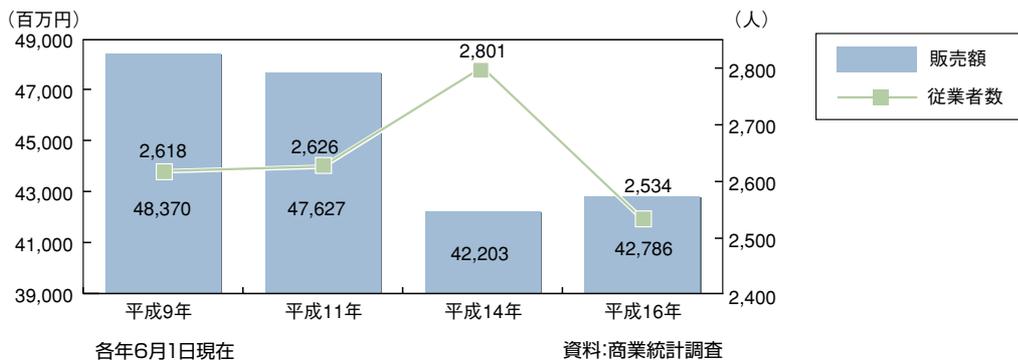
- ◆ 漁村地域には、美しい自然環境に加え、漁業に関する伝統文化など都市部にはない特色ある地域資源を有していますが、過疎化や高齢化の進展により地域社会の活力が低下しつつあります。

このため、漁業や漁村の有する多面的機能の維持増進による、個性ある活力に満ちた漁村づくりの推進が待たれています。

- ◆ 本市の商業は、年間商品販売額が減少しており、従業者数も減少傾向にあります。市内には大型店舗がなく個人営業が約70%を占めており、日用品や食料品などは大半が市内で消費するものの、衣料や耐久消費材などは約3割の市民が佐世保市で買い物をしています。

商店の空き店舗が増加している現状の中、高齢者や親子連れでも安心して利用できる商業空間を形成し、地域社会に密着した賑わいのある商店街を創出する取り組みが必要です。

■年間商品販売額の推移



◆ 本市の工業は、製造品出荷額が平成11年以降減少しており、平成18年では78億4千万円です。また、従業者数も平成8年をピークに減少しています。

今後、地域の特性、技術と産業資源を活用した商品開発等による中小企業の活性化を図るとともに、創造的中小企業を育成するための研究開発から事業化まで、効率的・効果的な支援システムの構築が求められています。

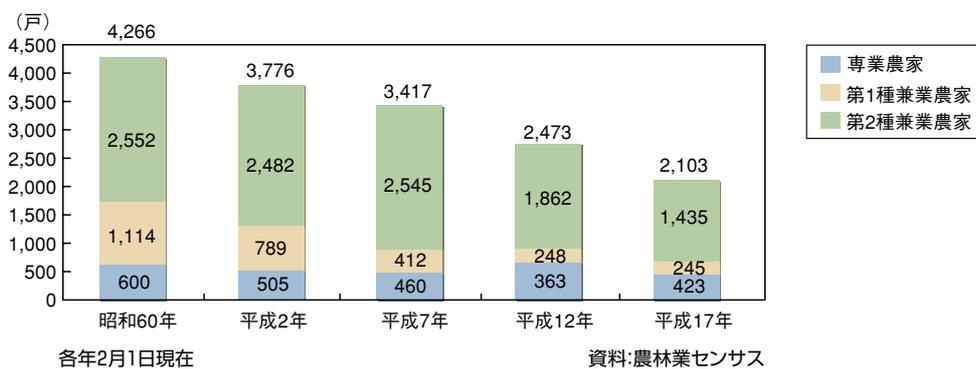
#### ■製造品出荷額の推移



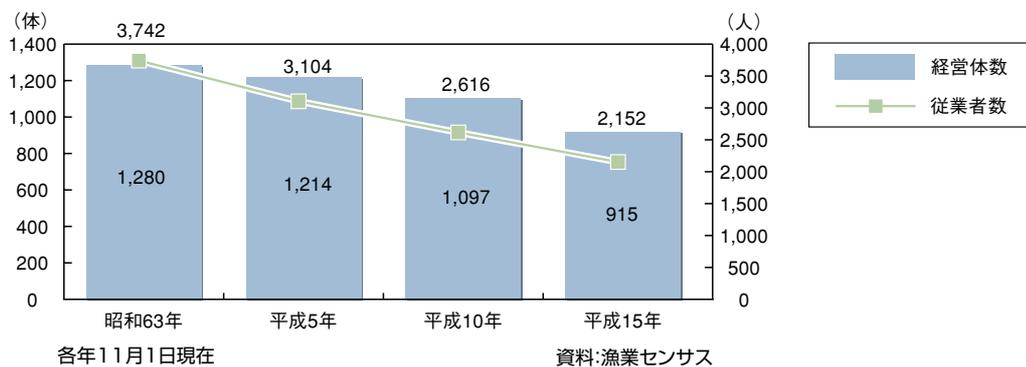
◆ 農林水産業の就労者は年々減少しており、後継者不足・高齢化が深刻な問題となっています。安全かつ安心な地場産品を安定供給す

るためにも、後継者や担い手を育成・確保していくことが重要です。

#### ■専・兼業別農家数の推移



■海面漁業経営体数及び従業者数の推移



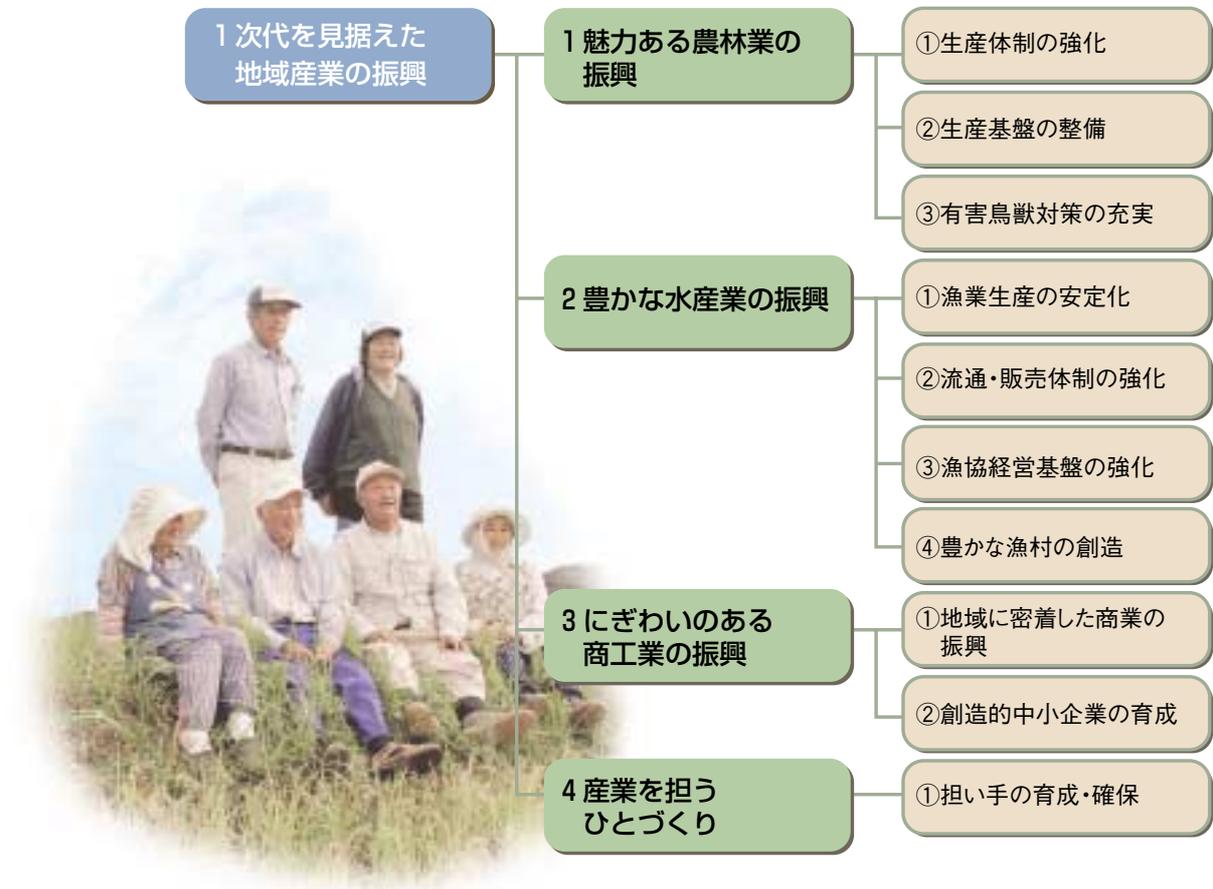
市民の満足度（50項目） ～ 市民アンケートから ～

項目の名称	満足度	項目の名称	満足度
地域の特性を活かした農林業の振興に関する事	46.4%	豊かな資源を活かした水産業の振興に関する事	48.2%
漁港の整備に関する事	82.7%	商店街や商業拠点の整備・商工業の振興に関する事	28.6%
買い物、飲食が楽しめる商業施設の整備に関する事	25.1%		

目標・方針

自然の恵みを活かしながら、にぎわいのある魅力的な産業の振興を図り、市民生活の安定や若者の定住化を目指します。

施策体系



## 施策の内容

### 4-1-1 魅力ある農林業の振興

#### ① 生産体制の強化

- ◆ 集落営農組織や農業法人等の設立を促進するため、営農相談研修会や情報提供などにより、優れた農業組織の育成を図ります。
- ◆ 県をはじめとする関係機関との連携を図りながら、営農指導体制の強化に努めます。
- ◆ 認定農業者を中心とした担い手による優良農地を集積し、農地の流動化を図ります。
- ◆ 農地パトロールによる耕作放棄の実態把握に努めるとともに、耕作放棄地解消に努めます。
- ◆ 収益性の高い農産物を効率的に生産するため、園芸施設（ハウス）等の導入、機械類の共同利用及び農作業受委託を促進します。また、共同集出荷場の活用を推進します。
- ◆ 各種研修会の開催や情報提供等を通し、経営能力の向上を推進します。
- ◆ JAを中心とした生産・販売体制を強化し、生産者組織の育成・強化を図ります。
- ◆ 肉用牛繁殖経営を中心とした生産体制をさらに強化するため、優れた種雄牛を活用した繁殖雌牛群の整備と市場性の高い子牛づくりに努め、銘柄確立を促進します。
- ◆ 森林整備については、優良材の生産を目指し、

共同化による効率的な施業、林業担い手の育成、高性能林業機械化の推進、流通加工体制の整備など長期展望に立ち、「平戸市森林整備計画」に基づき総合的に推進します。

#### ② 生産基盤の整備

- ◆ 安定かつ効率的な農作業や農業経営が展開できるように、ほ場整備や農道整備などの農業基盤の総合的な整備に努めます。
- ◆ 遊休農地の有効活用や棚田の整備、森林の整備を進め、美しい農村づくりを推進します。
- ◆ 効率的な畜産経営を図るため、低コスト牛舎等の整備を支援するとともに、農地の集団化による粗飼料生産基盤の整備と機械化作業体系の導入に努めます。
- ◆ 資源が循環する畜産環境づくりを進めるため、資源リサイクル型の堆肥施設の導入を図り、農家と連携して地域の土づくりを推進します。
- ◆ 菌床しいたけの栽培については、高品質で収益性の高い商品を効率的に生産するため、自主生産によるホダ木の確保対策と施設拡充を支援します。
- ◆ 森林資源の有効利用による地域の持続的な発展を図るため、廃菌床や廃ホダ木などを利用したバイオマス発電<sup>\*1</sup>の検討を行います。

#### ※1 バイオマス発電

植物などの生物体（バイオマス）を構成する有機物を燃料にして行う発電。二酸化炭素排出量がほぼゼロになる。

### ③ 有害鳥獣対策の充実

- ◆ イノシシやからす等の有害鳥獣による農作物被害が増大しているため、国県補助事業を活用しながら、侵入防止施設や捕獲罠設置などの被害防止対策を充実します。

#### 4-1-2 豊かな水産業の振興

### ① 漁業生産の安定化

- ◆ 低下した主要な資源水準を回復させるため、藻場・干潟など漁場環境の維持・保全、人工魚礁漁場の整備や増殖場など生産基盤の整備、広域的な栽培漁業の推進並びに資源管理への取り組みを強化します。
- ◆ 養殖業においては、複合型養殖経営の展開、漁場環境の改善と合わせて産地としての信頼性と知名度の向上を目指します。

### ② 流通・販売体制の強化

- ◆ 地域資源の有効利用と販売力の強化を図るため、漁協間の連携等による水産物の効率的な集出荷体制の改善を目指します。
- ◆ 水産物のブランド化を図ると同時に、マーケティング技術の導入による水産加工と販売力の強化を推進します。

### ③ 漁協経営基盤の強化

- ◆ 「長崎県漁協系統事業・組織改革方針」に基づき、自主的な改革に取り組む漁協系統団体や「長崎県漁協組織等強化基本方針」を掲げる県と連携しながら、資源管理・担い手の育成・販売

力の強化・金融機能の健全性確保など、自立漁協体制への再編と事業の強化への自主的な取り組みについて支援します。

### ④ 豊かな漁村の創造

- ◆ 西海国立公園や史跡などの豊富な観光資産を活かし、都市と漁村の交流活動の促進を図るため、漁業体験型の観光や地域水産物直売施設の整備等に対し積極的な支援を行い、観光産業と連携した交流促進を通じて、水産物の販売力強化と新たな収益増強を図ります。
- ◆ 漁業の担い手をはじめとする漁村の住民にとって、安全で快適な生活環境や効率的な生産環境づくりを図るため、基幹的な漁港施設や環境施設の整備を推進します。



#### 4-1-3 にぎわいのある商工業の振興

- ① 地域に密着した商業の振興
  - ◆ 個々の商店が、大型量販店にはない魅力を創出することにより、地元消費者の市内回帰を図り、商業の活性化を推進します。
  - ◆ 高齢者や親子連れが気軽に立ち寄れる商店街等の環境の整備等を進めるとともに、空き店舗等を活用した地域コミュニティの場の提供や「平戸温泉・城下雛祭り」などのイベントを開催するなど、地域社会に密着した賑わいのある商店街を創出する取り組みを支援します。
  - ◆ 農林水産品や観光資産などの地域資源について、他地域との差別を図ることにより、地域資源の価値を向上し、地産地消の促進及び地域内外への販売・消費の拡大を促進します。
- ② 創造的中小企業の育成
  - ◆ 創造的中小企業を育成するための研究開発から事業化まで、効率的・効果的な支援システムの構築を図ります。
  - ◆ 地域の農林水産品、観光資産や技術などを活用した商品開発等を行い、地域外市場への積極的な取り組みを支援し、地域産業の活性化を図ります。

#### 4-1-4 産業を担うひとづくり

- ① 担い手の育成・確保
  - ◆ 産業の後継者や新たな担い手となる人材の確保と計画的な経営発展を目指す経営者を育成するとともに、やる気のあるグループ育成に向けた研修制度の拡充を図ります。
  - ◆ 若者やUターン者等の新規就業者に対し、就業に関する情報の提供や制度資金の活用等による支援を行います。
  - ◆ 農家の労働力不足を補うため、農業ヘルパー制度<sup>※1</sup>の確立を図ります。
  - ◆ 高齢者の林業担い手や森林小規模保有者対策として、森林組合等による委託事業及び共同化施策を推進します。
  - ◆ 地元事業者や商工会議所、商工会を支援し、将来の地域産業を担う人材の育成・確保に努めます。



観光人材育成プロジェクト 食のワークショップ

※1 農業ヘルパー制度

農家で働きたい人々を労働力として紹介する制度

#### やらんば指標(成果指標)

指標の名称	年度	現況値	中間目標値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)
農業産出額	H17	52.8億円	53.6億円	54.5億円
認定農業者数	H18	149人	242人	242人
遊休農地の活用面積	H19	3ha	23ha	40ha
繁殖雌牛頭数	H19	3,432頭	3,870頭	4,231頭
漁協市場・系統出荷額	H18	49億円	50億円	50億円
漁協直販売上額	H18	2億円	4億円	6億円
漁協加工品販売額	H18	3,200万円	4,000万円	5,000万円
卸売・小売商品販売額	H16	428億円	434億円	440億円
製造品出荷額	H18	78億円	82億円	86億円

※製造品出荷額については、年間(1月~12月)で集計

#### みんなのまちをよくするために・・・

- 遊休農地バンクへの情報提供や登録に協力し、農地の有効利用に努めましょう。
- 環境にやさしい資源循環型農業を進めましょう。
- 海の環境保全に努めましょう。
- 水産資源管理に取り組みましょう。
- 取り扱う農林水産物の品質向上に努めましょう。
- 市内で買い物をしましょう。

## 第2節 平戸ブランドの確立

### 現状と課題

◆ 本市には、平戸牛、ひらどロマン、平戸ひらめ、平戸うちわエビ、川内かまぼこなど、豊かな自然から恵まれた特産品が多くあります。しかし、広く平戸ブランドとして知られている状況とはなっていません。

農林水産業や加工業、商業、観光産業の連携のもと、地場産品の高付加価値化を図り、平戸ブランドを確立することが強く求められており、特産品の販路拡大のため、ブランドの統一とともに都市部とのネットワーク化が必要です。

また、国内のみならず世界中で食の安全性が重要となっているため、有機栽培、低農薬使用や安全な飼料の使用など、環境に配慮した農漁業生産を推進し、安全・安心を求める消費者ニーズにあった農林水産物を生産することが求められています。

◆ 本市では、農林水産物の直売所が多くあり、消費者へ新鮮で安価な生産物を提供するとともに、農林水産業者と消費者の交流が行われています。

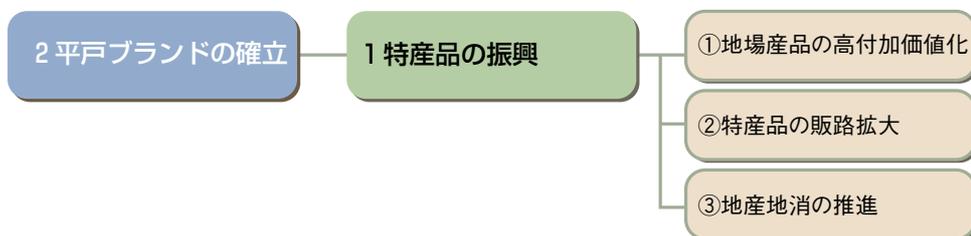
また、学校給食や郷土料理など、地元で生産された食材が利用されるなど、地産地消が進展しています。

地産地消は、食育や食文化の伝承と活用、生産者の生きがいや消費者の安心・信頼、さらには、食を柱としたまちづくりなど地域づくりに繋がるものと考えられるため、今後とも積極的に地産地消を進めることが求められています。

### 目標・方針

地場産品の高付加価値化による平戸ブランドの確立を目指します。

### 施策体系



### 施策の内容

#### 4-2-1 特産品の振興

##### ① 地場産品の高付加価値化

- ◆ 地域の特色を活かした特産品の生産振興を図るとともに、製品のブランド化を図ります。
- ◆ 女性農業者等で組織する生活改善グループなどを中心に、女性が持つ感性と能力を活かせる環境づくりを進めます。
- ◆ 地域に古くから伝わる伝統料理や漬物などを発掘し、特産品としての活用を図ります。
- ◆ 安定した品質の生産と供給を目指し、技術指導、調査研究、講師の招聘など、地場産品を活用した新商品・新技術の開発を行う活動を支援します。
- ◆ 地元観光業者や消費者との交流・連携を促進し、その基盤となる農林水産物直売施設の整備等への支援や観光と結びつけた農林水産業の推進を図ります。
- ◆ 安全・安心を求める消費者ニーズにあった産品を提供するため、有機栽培、低農薬や安全な飼料を使用するなど、環境に配慮した農漁業生産を推進します。

##### ② 特産品の販路拡大

- ◆ インターネット等により地域の農林水産物の情報を発信し、販路の拡大や消費者等との交流を促進します。

- ◆ 直売、ギフト商品による産地直送、観光協会・料飲業組合と連携したグルメ商品の食材提供などに改良を加え、収益力と安定性のある事業の確立に向けて、生産者団体に対し支援します。
  - ◆ 都市圏で物産展を開催することにより、特産品や地場産品の流通拡大、平戸の知名度向上を図ります。
- ##### ③ 地産地消の推進
- ◆ 地元でとれた新鮮な農林水産物を地元で消費することで、生産拡大を図るとともに、「顔が見え、話ができる」生産者と消費者との交流を推進します。
  - ◆ 消費者ニーズを的確に捉え、ホテル、飲食店、医療・福祉施設、学校などとの安全・安心な地場産品の供給体制づくりを推進します。
  - ◆ 地場産品を活用した食育や食文化の伝承と活用に努め、郷土料理の開発や掘り起しを図ります。



やらんば指標（成果指標）

指標の名称	年度	現況値	中間目標値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)
新特産品開発数	—	—	10品	20品

みんなのまちをよくするために・・・

- 安全・安心で高品質な地場産品を生産し、消費者に提供しましょう。
- 平戸の特色を活かした特産品の開発と製造、販路拡大に取り組みましょう。
- 地元で採れた新鮮な農林水産物を地元で消費しましょう。



### 第3節 新たな産業の創造

#### 現状と課題

◆ 本市では、基幹産業である農林水産業や観光産業が低迷し、生産年齢である若年層の流出が続いています。

雇用を促進し、定住人口の確保や地域の活性化を図るために、地域の農林水産物、伝統技術や歴史文化といった地域資源を活かし、積極的に取り組む企業を輩出する環境づくりなど新たな産業を創出することが求められています。

◆ 本市では、これまでも工業団地の造成をはじめ、企業誘致に努めてきましたが、交通アクセスの条件等により、大変困難な状況にありました。しかし、企業立地による雇用の創出は、若年層の流出防止を図り、人口増加という地域の課題を解決する最重要課題のひとつであるため、今後も積極的に推進していく必要があります。

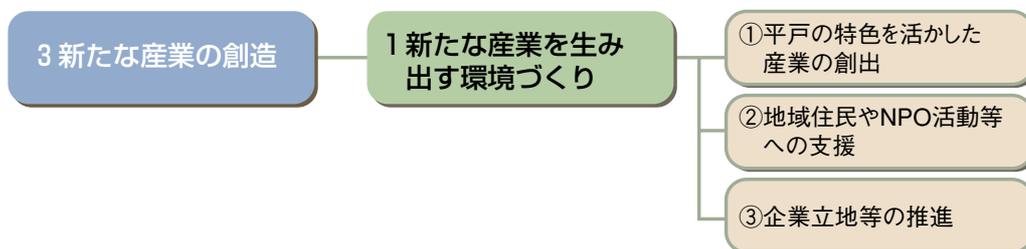
#### 市民の満足度（50項目） ～ 市民アンケートから ～

項目の名称	満足度		
企業誘致や雇用対策、就業環境に関すること	13.9%		

#### 目標・方針

地域特性を活かした新しい産業により、雇用の創出と地域経済の活性化を目指します。

#### 施策体系



### 施策の内容

#### 4-3-1 新たな産業を生み出す環境づくり

##### ① 平戸の特色を活かした産業の創出

- ◆ 地域資源を活用した新商品・新サービスの開発等に積極的に取り組む企業等を輩出する環境づくりを推進するとともに、新技術開発や新分野進出を支援し、新たな産業の創出を図ります。
- ◆ 新しい技術・サービスによる事業を展開することにより、雇用を生み出すなど地域経済を活性化させることに取り組むベンチャー企業<sup>※1</sup>の起業等について支援していきます。
- ◆ 地域産業や情報化社会を担う人材の育成を進めるため、関係団体等と連携した人材育成事業について検討します。

##### ② 地域住民やNPO活動等への支援

- ◆ 地域住民やNPOが主体となって、高齢者支援、子育て支援、商店街活性化など地域の抱える課題を、地域の人材やノウハウ、施設等を活用して継続的なビジネスとする取り組みを支援します。

- ◆ 地域を活性化するコミュニティビジネス事業の起業・経営を支援します。

##### ③ 企業立地等の推進

- ◆ 企業の情報収集と地域の特性を分析し、地域の強みを活かした企業立地活動を積極的に行います。
- ◆ 各種インフラ整備を検討するとともに、ものづくり産業を支える人材の育成について関係機関等と連携して取り組みます。
- ◆ 外部資本等を活用した地域資源の活用による地域経済の発展の可能性について検討します。
- ◆ 企業誘致に代わる「平戸ならではの」のテーマをもつ研究所、教育機関の設立誘致を検討します。

### やらんば指標（成果指標）

指標の名称	年度	現況値	中間目標値 (平成24年度)	目標値 (平成29年度)
新規起業数	—	—	2事業所	4事業所
立地企業等による新規就業者数	—	—	350人	700人

※1 ベンチャー企業

高度な知識や新技術を軸に、革新的・創造的な経営を展開している企業